

四国地方の公共事業における PI 調査とその事例

香川大学工学部 正会員○森下一男 香川大学工学部 正会員 井面仁志
徳島大学工学部 正会員 山中英生 国交省四国地方整備局 正会員 池田 清

1. はじめに

「四国地方の市民参加型公共事業の進め方に関する研究会」(以下、「PI 研究会」と略)は、土木学会四国支部において平成9年6月に発足した「四国社会資本問題研究会」の第一部会として活動している研究会で、平成13年度で5年目を迎えた。PI 研究会の趣旨は、市民参加型公共事業の進め方において、公共事業を円滑に進めていく上で、地域住民や関係者の意見、ニーズなどを的確に把握し合意形成を図る手法やルールを研究することである。平成13年度の研究目的は、市民参加型公共事業の推進・普及に寄与するため、参加型計画の事例とその評価・手法等について研究成果を整理し、今後の参加型計画の指針作成に向けての取り組み方法についての提言をまとめることであった。事例調査の統計的分析は、すでに今春の土木学会四国支部技術研究発表会で PI 研究会委員が講演しているため、本報では、事例調査の中から具体的事例をとりあげ、PI 調査の内容と成果を報告する。

2. PI 調査の概要

PI 調査の概要を表-1 に示した。一次調査は PI 研究会委員が各県の PI 事業の調査を行い、PI 事業に該当する事業名称および関係行政機関等を各県ごとに列記しまとめた。二次調査は PI 事例調査と PI ヒアリング調査から成るが、PI 事例調査は一次調査で明らかになった PI 事業の関係行政機関および専門家等の事業担当者を対象とし、共通のアンケート調査票に即して PI 事例調査を行なった。PI ヒアリング調査は、各県の主だった PI 事業について共通のヒアリング調査票を作成し PI 研究会委員が担当した。ヒアリング対象者は、各事業の関係行政機関および専門家等の事業担当者とした。

表-1 四国地方における PI 調査の概要

調査の種類	件数	調査対象	調査の実施方法	
一次調査	109	事業担当者及び資料等	PI研究会委員による調査	
二次調査	PI事例調査	49	事業担当者(行政・専門家等)	アンケート調査票を作成し実施
	PIヒアリング調査	29	事業担当者(行政・専門家等)	ヒアリング調査票を作成し実施

3. PI 事例調査の例

ここでは香川県の

二つの例を取り上げる。二次調査 PI 事例調査の中から、善通寺市ボランティア公園と牟礼町まちづくりの二つの例である。PI 事例調査はアンケート調査票に基づいて行なわれた。表-2 にアンケート調査票の調査項目と事例の内容を掲げた。調査項目は大きく A~G に区分され、区分によっては細かい項目から成るものもある。

善通寺市ボランティア公園における PI の目的は「ボランティア公園の整備計画立案」であり、公共事業の情報は、事業者：市都市計画課、事業名：吉原ボランティア公園整備事業、事業期間：平成11~12年度、事業場所：市内吉原町、事業概要：ボランティア公園候補地の選定、公園の概略設計、施工・整備、供用後の維持管理方式の検討、となっている。一方、牟礼町まちづくりにおける PI の目的は「近年、高齢化・少子化が急激に進み、福祉に対する関心が高まり、町民の多くから要望等が出ている。牟礼町原地区に町が用地を確保したので、そこを「福祉ゾーン」として位置づけ、その整備方策について、ひいては牟礼町における「福祉のあり方」等について協議・検討する」ことであり、公共事業の情報は、事業名：福祉ゾーン整備事業、事業期間：平成12~13年度、事業場所：町内原地区、事業概要：「共に生きる」を基本理念として、様々な立場の人々が集い、助け合って生きて行くという「生活コミュニティ」を創造するため、福祉ゾーンの拠点に、幼稚園・保育所・多目的公民館を合築し、合わせて多目的広場等を整備し、地区内福祉施設等との有機的な連携、共有化を図る、としている。また、PI の感想として、善通寺市の担当者は、良かったことは「行政が頻りに地元に行く必要がなかったこと」をあげ、苦労したことは「事業初年度である平成11年度は公園の候補地が決まらず難航した」点である。牟礼町の懇話会の座長は、良かったこととして「住民が種々雑多な考え方をしていることが分かった」点をあげ、PI の反省点は「懇話会をまとめる手法が

キーワード 四国地方 住民参加 公共事業

連絡先：〒761-0396 高松市林町 2217-20 TEL(087)864-2161 FAX(087)864-2188

あれば、2年もかけずに1年少しで結論が出ていたかもしれない」と指摘している。

4. PIヒアリング調査の例

ヒアリング調査も調査票に基づいて行なわれたが、大きく二つに分かれ、一つは「PIでの特徴的な事項や経験について」である。これは①「関心層」に関して／②PI参加者の範囲について／③PI開始時の前提条件について／④PIに参加、実施して／⑤PIでの反省点・改善事項や提案／⑥PIに参加、実施しての感想、である。③の前提条件とは、普通寺市の場合は事業費が1千万円未満／箇所、牟礼町の場合は福祉ゾーン用地が6千㎡であったことである。次に、もう一つは「PIの理解度」についてのヒアリングである。表-3のように「PIの理解度」を5段階で評価するものとして、表-4のように、理解度別・段階別に評価をした。ボランティア公園の場合に仕組み不明があるものの、牟礼町のまちづくりと共に、どの理解度も、どの段階もPIによく取り組み、それが事業竣工後の維持管理あるいは事業着工に反映している。ボランティア公園の場合は、理解度1から理解度5に向けて進行しているが、牟礼町では懇話会で議論した期間が2年以上もあったため、理解度2から理解度4の間では錯綜した場合も生じている。

5. おわりに

今回のPI調査の結果はデータベースにもなっており、これからPIに取り込まれる行政の担当者には参考になると思われる。「PIの理解度」に関しては、公共事業の期間がPIの手法、対象、実施段階などによって必ずしも一定でなく、長期間に及ぶ場合もある。そのような場合にも、企画・構想、基本計画・概略設計、詳細設計、施工・整備、維持管理などのステージごとに、理解度1から理解度5へ進むプロセスを踏むことが住民参加を実効あるものとする。特に、理解度1から理解度3の初期段階は、公共事業が竣工して後の維持管理をスムーズに運ぶためにも、また、竣工後の施設や整備が住民から長く愛着をもって迎えられるためにも、不可欠のステップである。

表-2 PIアンケート調査票と事例

区分	項目	事例1	事例2
A.記入者の属性(氏名・所属・電話FAX番号・E-mail)			
B.PIの名称(略称可)		普通寺市ボランティア公園	(香川県)牟礼町まちづくり
C.PIの基礎情報	開催時期	'99年4月～'01年3月	'97年10月～'99年3月
	関係組織	市都市計画課、吉原町連合自治会	町福祉課
	PIの目的	(本文に記載)	(本文に記載)
	PIの手法	協議会・WS	懇話会
	PIの対象	公園緑地	まちづくり
PIの実施段階		企画・構想、基本計画・概略設計、施工・整備、供用	企画・構想、基本計画・概略設計
D.公共事業の情報		(本文に記載)	(本文に記載)
E.PIの実施状況	PIの名称	吉原地区ボランティア公園協議会	牟礼町まちづくり懇話会
	1回の参加者概数(対象者数)	15(15)名	19(21)名
	1回のスタッフ概数	5名	3～4名
	参加の方法	選定者に限定	選定者に限定
	参加者属性	地域住民	地域住民
	PIの公開性	規定せず	途中から公開
	PI参加者の呼びかけ方法	公募,その他(地域代表者)	公募(11名),その他(町の指名)
	実施回数	6回	29回
F.PIの経過	開催年月		
	PIの名称	(略)	(略)
	PIの概要		
G.PIの感想		(本文に記載)	(本文に記載)

表-3「PIの理解度」評価のランク

Aランク: 十分な取り組みをした
Bランク: 取り組みをした
Cランク: 取り組みが少なかった
Dランク: 取り組みをしなかった
Eランク: 取り組み不明

表-4 「PIの理解度」に対する概略ヒアリング((善):普通寺市ボランティア公園,(牟):牟礼町まちづくり)

長町によるPIの原理 ¹⁾	【第1段階】 意識:情報提供やきっかけ 行動:きっかけ	【第2段階】 意識:理解する場の有無 行動:行動の場の有無	【第3段階】 意識:理解による意識の変化 行動:行動の結果
理解度1: 情報提供一見せる・知らせる	●【情報提供・きっかけ】 B(善),C(牟)	●【情報発信の場】 B(善),B(牟)	●【フィードバック】B(善),B(牟)
理解度2: 疑問解消一疑問を持つ・解消する	●【疑問解消の情報提供・きっかけ】E(善),B(牟)	●【疑問・質問の場】 B(善),B(牟)	●【疑問の解消】E(善),B(牟) ●【フィードバック】B(善),B(牟)
理解度3: 自我関与一意見陳述・議論参加	●【意見議論のための情報提供】B(善),B(牟)	●【意見・議論の場】 B(善),B(牟)	●【意見の有無】B(善),B(牟) ●【フィードバック】B(善),B(牟)
理解度4: アイデア提供一具体案・設計への関与	●【アイデア募集の情報提供・きっかけ】B(善),B(牟)	●【アイデア募集の場】 B(善),B(牟)	●【アイデアの有無】B(善),B(牟) ●【フィードバック】B(善),B(牟)
理解度5: 変化を造る一Self-Designing	●【意思決定のための情報提供】B(善),B(牟)	●【PI参加者の意思決定の場】B(善),B(牟)	●【意思決定の有無】B(善),B(牟) ●【フィードバック】B(善),B(牟)

《参考文献》1)長町三生:住民参加の人間工学,土木学会誌,86(12),pp.67-70(2001)